

## 全国大会出場者へ 激励費授与

スポーツ振興の一環として、全国大会に出場される方に激励費が授与されました。

### 第75回秩父宮賜杯全日本バレー ボール大学男子選手権大会

開催期間

令和4年11月28日～12月4日

開催地 東京都

出場者 内本 歩夢さん（平野）

（東亜大学3年）

### 第31回全日本大学女子サッカー 選手権大会

開催期間

令和4年12月24日～令和5年1月6日

開催地 兵庫県

出場者 広津のどかさん（日前）

（帝塚山学院大学3年）



## 周防大島の文化財⑤2

### 旧福元家住宅（屋代）

《周防大島町文化財保護審議会委員 中野行真》

明治18年（1885）、労働力不足に悩むハワイ王国から農業移民を依頼され、第1回官約移民が実施されると、明治27年までの9年間で約2万9000人の日本人が海を渡った。そのうちの約4000人が大島郡出身者であった。その後、アメリカ本土へも移住できるようになると、ハワイからアメリカ本土に渡る者、直接日本から渡航する者も出た。大正5年（1916）の時点で、ハワイに約3900人、アメリカ本土に約1000人が大島から移住していた。そうした移民の中には、契約終了後に帰国して故郷へ家を建てて者や、海外から大島の学校や社寺に寄付を行い、故郷の発展に協力した者もいた。

現在、日本ハワイ移民資料館となっている旧福元家住宅を建てた福元長右衛門も、その一人である。明治31年に16歳で渡米した長右衛門は、カリフォルニア州サンフランシスコで米国人の家庭に住み込み奉公

をしながら夜学で学び、貿易事業で財を成した後、大正14年に帰国した。翌年、長右衛門は自ら台湾に渡り建材に用いる檜を調達して、筏に組んで大島まで運び、西屋代上片山の現地に邸宅を建てた。

主屋は、一階部分の多くを接客用の座敷が占める。座敷には欄間が設けられ、床の間も置かれるなど、全体として和風建築がベースとなっている。その一方で、家族の寝室がある二階へ上がる階段は、らせん階段を意識して作られ、浴室にはタイルが貼られるなど生活空間にはアメリカでなじんでいた西洋風のスタイルが採用されている。また、他のハワイ帰りの人が建てた家でもみられることだが、二階にもトイレが設けられていることなどは、当時の和風建築にはなかなかみられない特徴である。親族の言い伝えによれば、長右衛門は帰国の際にオーブンをはじめとした台所設備や、洋式便器、浴室のタイルなど、当時の大島では入手

困難とされていた多くの家財道具を持ち帰り、この家を建てた。二階の寝室には各自のベッドが置かれ、毎朝ホットケーキやワッフル、コーヒーマーの朝食をとって、時に持ち帰ってきた純白に塗られたグラントピアノを弾いてアメリカでの生活を懐かしんでいたということである。

このように、移民生活者が持ち帰った生活文化と、伝統的な和風生活文化が融合した貴重な住宅として、福元長右衛門邸は令和4年2月17日、国の登録有形文化財（建造物）となった。



▲国の登録有形文化財となった旧福元家住宅（現在の日本ハワイ移民資料館）